http://decfamily.p1.bindsite.jp/2017/

We 25R

No.229　17/06/02

常日頃から

今回の考査から漢文が別立てになった。考査を受ける側としては大変になったのだろうか、それとも古文とは別の日になって勉強しやすくなったのだろうか。

この漢文別立てを始めたのは３年前で、その理由は、模試などの結果を分析すると、漢文分野に大きな向上の余地が認められるからである。１年次から始めることも考えなかったわけではないが、まだ学習を始めたばかりだし、週１時間程度の学習では、別立てにして出題するほどの内容がないだろうということで、基礎が固まる２年次から始めることにしたのである。

一方、別立てにすれば、古文と漢文の両方を準備する場合に比べて、両者の考査範囲についてしっかり準備することが（理論上？）可能となるわけだから、漢文はもちろんのこと、古文の学習にもよい影響が出るのではないかとも期待している。

漢文も一種の語学であるから、基本、暗記しなければならない部分がある。しかし、それはそれほど多くはないのであって、漢文独特の口調とともに、基本をしっかりとマスターすれば、あとは現代文と同じで論理的に読み進むだけである。だから、ここはぜひ「明説漢文ノート」をきっちりこなして、問題を解く際の基本となる部分を固め、さらにそれを「プログレス」で確認していってほしい。

何事にも「慣れ」という部分がある。漢文も、色々な文章を「音読」していくうちに、自然と力が養われていくものだ。だから、考査に備えて準備する際には、教科書のみでなく、「明説漢文ノート」や「プログレス」の問題についても繰り返し音読し、そのリズム感や論理の展開などを身につけていくとよいだろう。

＊

ところで、今「明説漢文ノート」「プログレス」という名前を出したが、他教科の副教材も含め、もう準備に時間がなくて手が回りそうもないという状態に陥っている諸君もいるのではないか。で、それはすでに１年生の時にも経験しているはずで、そこから抜け出す努力をしないといけない時期に来ていることを、そろそろ素直に認めなければならないだろう。それが「実行できるか出来ないか」で、「現役かそうでないか」も決まってくるといっても過言ではない。同じ教室で、同じ教材を使い、同じ先生に習っているにも関わらず、結果に違いが出てくるのは、やるべきことをきちんとやっているかやっていないかの差なのである。

そのためには、日常から計画的に副教材などをこなしていくことが重要だ。「先生、そんなこと言ったって、直前にやらないと忘れちゃうよ」という人もいるが、考査前に一度やったことを復習するのと、はじめてやるのとでは大違いである。かかる時間も違えば、記憶として定着する度合いも大きく違う。そのことを（今回は間に合わないとしても、次回に向けて）認識してほしい。

進路調査の結果でも、まだまだ家庭学習時間が不足している現状がある。目の前に副教材という課題があるのだから、それを家庭学習の中に位置づけてほしい。